■ CONTENTS ■

Editorial

エビデンスに基づく医療費配分を 123

総　説

WHO インフルエンザガイドライン 124
重症者と高リスク者への抗ウィルス剤推奨の根拠崩れる

New Products

心不全用剤ベルイシグアト 128
軽症例に使用すれば死亡が増加する

害反応

WHO が推奨する根拠が崩れた！！ 132
重症患者へのオセルタミビルは死亡を倍増する

薬害は終わっていない

⑥陣痛誘発・促進剤の被害

今、また問題になる陣痛促進剤！ 富永 愛 137

産科用プロスタグランジン製剤に関する補足と修正 141

Others

医師国家試験に挑戦しよう（問題） 127

コーヒー無礼区 開店祝いのはずが… 131

医薬品危険性情報ピックアップ 136

FORUM 低 FODMAP 食事療法に根拠はありますか？ 142

私の本棚 総員玉砕せよ！ 142

医師国家試験に挑戦しよう（正解と解説） 143

次号予告／事務局だより／編集後記 144

表紙のことば：明治に京都再生への願いを託し築かれた琵琶湖疏水。令和になった今も人々の生活用水を運んでいる。

編集部から

2026 年 8 月 6 日、顕微鏡的多発血管炎（MPA）・多発血管炎性肉芽腫症（GPA）への治療効果を期待されて「薬」として承認されていたアバコパン（商品名：タブネオス®）が、欧州地域で承認取り消しとなった。具体的な害反応の中身や、欧州地域で承認取り消しに至った経緯、日本との対比などの詳細は前号に記載したところだ。その後 10 月 21 日、日本でも厚生労働省が使用中止を勧告する通知を医療機関向けに出している。

アバコパンの承認根拠とされた論文（現在は撤回）を改めて見たが、この論文だけではデータ改ざんを疑わせる兆候を確認できなかった。

論文のデータ改ざんが発覚した契機が、アバコパン開発元の株を所持していた株主による訴訟ということで、もし論文の学術的な妥当性だけを徹底的に調べていたとしても、今回の不正には気づくことができなかっただろう。

「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉がある。不正をしてたとえ一つの側面では欠陥がないかのように装うことは出来ても、別の側面であっさりボロが出てしまい、結局はごまかしきれないということか。「頭隠して尻隠さず」というのもある。今回のことをきっかけに、学術面はもちろん、それ以外にも注目し、隠したつもりの「尻」を見つけ、氷山の水面下の姿を見ていきたい。学術面では今号でも登場します。どの記事でどのように？（わ）